

七代目松本幸四郎

幸四郎の生涯

歌舞伎の名優・七代目松本幸四郎(幼名:秦豊吉)は、1870(明治3)年、伊勢国員弁郡長深村(現在の三重県員弁郡東員町)で誕生しました。1874(明治7)年、父が事業家で各地を転々としていたこともあり、豊吉が4歳の年に、母と共に上京。京橋区(現在の東京都中央区)に落ち着いたころ、そこで虎屋饅頭の株を買い、駄菓子屋をはじめたといわれています。

この駄菓子屋の顧客であった、藤間流家元の二代目藤間勘右衛門には子がいなかったため、豊吉を藤間家の養子として迎え、踊りを厳しく仕込んでいきました。豊吉は、11歳になると市川團十郎の門に入り、歌舞伎俳優としての頭角を現していき、1911(明治44)年に七代目松本幸四郎を襲名しました。

幸四郎は、恵まれた容貌、堂々たる口跡に裏打ちされた風格のある舞台上、時代物、荒事に本領を発揮し、特に、九代目市川團十郎の直系の芸である「勧進帳」で武蔵坊弁慶を演じては、彼の右に出る者はなく、生涯を通じて1600余回演じ、不朽の演技として後世に語り継がれることになりました。

幸四郎は、1949(昭和24)年に80歳で亡くなりました。子に十一代目市川團十郎、初代松本白鸚(八代目松本幸四郎)、二代目尾上松緑、孫に二代目松本白鸚(九代目松本幸四郎)、また、十代目松本幸四郎、松たか子、十三代目市川團十郎は曾孫に当たります。

武州寄居町雀亭

自らの著書「松のみどり」(1937年刊)では「私は山の景色が好きですが、就中溪流が大好きで青葉時とか紅葉の頃に岩に激し、濼々として流行く京都の保津川下りなど殊に好みまして度々やりました。(中略)秩父の長瀬と寄居の間七里の溪流が保津川に劣らぬところだといふことを聞いて行つてみました。そして大いに氣に入ったので直ちに藤を容るゝに足るだけでは御座います但別荘を建てたので御座います」と記されています。この別荘が「武州寄居町雀亭」であり、昭和初期まで存在していました。



大正時代の「武州寄居町雀亭」



「武州寄居町雀亭」を模した東屋

